

令和7年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立久留米聴覚特別支援学校

自己評価				
学校運営計画(4月)				評価(総合)
学校運営方針	一人一人の可能性を最大限に引き出し、子どもたちが聴覚障がい者としての自信と誇りをもち、自ら考え判断し、主体的に課題に取り組む行動することができる力を育成する。			
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標		
【成果】重複学級の教育課程や教材の整理、発達段階に応じた教育相談の内容等の工夫によるセンター的機能の発揮、少人数のケース会議やグループ会議による学部内での連携等が進んだ。 【課題】メンターチーム制及び各種研修の活用により、聴覚障がい教育の専門性と教科指導力の獲得・維持・向上を図るとともに、計画的に人材を育成する。	学力・体力の向上	「生きる力」の育成を目指した主体的・対話的で深い学びの実現、学力向上のための授業改善、読書活動の推進、外国語・外国語活動の充実、ICT教育の推進、県内外の競技会への積極的参加及び運動活動の推進、体を動かして遊ぶ時間の確保等を通して、学力・体力の向上を図る。		
	言語力・コミュニケーション力の向上	日本語の読み書き力の向上を目指した授業改善、「言葉の時間」の充実、「話し合い」活動の充実、豊かな手話表現習得を目指す場の設定、ろう者や聴者と関わる場を通じたコミュニケーション力の育成、体験活動の推進を通して、言語力・コミュニケーション力の向上を図る。		
	障がい認識・自己肯定感・規範意識・社会性の向上	障がい認識を育む教育の推進、キャリア教育・人権教育・道徳教育の充実、生徒指導の充実、パワフルキッズタイム(小・中)の充実、ライフスキル教育の実践、危機管理マニュアルの見直し等を通して、社会性等の向上と危機管理体制の強化を図る。		
	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
教務部	学習指導要領に基づく教育課程の実施と指導内容の充実	・各学部や重複学級担当者委員会等の各種委員会と連携を図り、教育課程の実施状況の把握、指導内容の検証を行う。[月1回]		
	幼児児童生徒が落ち着いて学習に取り組める環境整備	・教育活動が円滑に行えるように各分掌、学部との連絡調整を綿密に行い、校舎改築及び移転に伴う学習環境の整備計画及び実施を迅速に進める。		
	キャリア教育の充実と進路、職業意識の涵養	・キャリア教育の内容の見直しと精選を行い、児童生徒や保護者対象の進路講演会[年1回以上]など、計画的に実施する。		
情報教育部	円滑かつ安全に情報機器を活用したICT環境の推進	・電子黒板やデジタル教科書、文書作成や表計算ソフト、生成AI等の使い方について研修会を行い、校務及び授業で効果的に活用できるようにする。[年2回]		
	ホームページを活用した定期的な情報発信	・ホームページの掲載計画を立て、行事毎[月に1回以上]に更新できるよう学部と連携し情報発信する。		
こども育成部	高い規範意識と主体的に行動できる力の育成	・児童生徒の主体的な活動を促すために、小中学部合同集会「パワフルキッズタイム」及び関連する取組を行う。[月1回] ・いじめ等の早期発見に向け、日々の行動観察や「学校生活アンケート」[月1回]や「いじめに特化したアンケート」[学期1回]を実施する。		
	日常生活における安全の確保及び適切な危機管理	危機管理マニュアルを効果的に活用し、実践的な訓練を行い[年2回]、各分掌等と連携して危機管理マニュアルの見直しを行う。		
健康・安全部	発達段階に応じた、保健指導・健康安全教育の充実	・年間計画を活用し、各学部で性教育の実践を積み重ねると共に、学校保健研究会で実践内容の発表を行う。		
	適切な危機管理に努め、幼児児童生徒が安心して生活できる環境の整備	・諸委員会や保健体育科と連携しながら、緊急時の対応訓練や研修を行い、緊急時の対応について全職員で共有をする。「年2回」		
支援部	聴覚障がい教育の専門性、保育及び教科・領域等の指導力向上	・授業力向上、専門性向上のため、学部研修[月1回]、夏期講習会[年1回]、手話研修[月1回]、ニーズに合わせた研修等を計画、実施する。		
	特別支援教育のセンター的機能の充実	・地域のセンター的機能の充実を図るために、理解啓発活動や教育相談などを実施し、関係機関との連携を強化する。		

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
	A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見

幼稚園部	【学力・体力の向上】 豊かな体験を通して、心身の調和的な発達を促し、主体的・対話的な活動の中で、自ら学び、考え、行動する力を培う。	・幼児の発達段階に応じて運動遊びの内容を充実させ、保育活動全般を通して体を動かす時間を十分に確保し、体力・運動能力の向上を図る。 ・幼児の実態を的確に把握・分析することで、一人一人の特性や発達段階に応じた指導支援の工夫を行うとともに、学部会での情報共有を行い、職員間で連携しながら指導支援を行うことができるよう工夫する。 ・語彙の習得や定着、概念形成につながる掲示を行い、教室環境を工夫する。					
	【言語力・コミュニケーション力の向上】 豊かなコミュニケーション環境を保障し、幼児の日本語の基礎を育てるとともに、教員の専門性の継承に努める。	・生活全般を通して情報保障への意識を高め、実物や写真、イラスト、文字等の視覚的教材を活用し、手話を用いながら聴覚や音声等も活用したコミュニケーション活動を展開する。 ・遊びや行事の前後には「話し合い」活動を設定し、言語力の向上を図るとともに、幼児同士が経験や思いを主体的に伝え合ったり、思考を深め合ったりできるように、教師の発問や言葉掛けを工夫する。 ・自立活動の実態表を活用し、幼児の実態を十分に把握した上で、段階的で適切な個別指導を行う。また、学部研修において、全幼児の実態について共通理解を図る。					
	【障がい認識・自己肯定感・規範意識・社会性の向上と危機管理体制の強化】 温かい人間関係のなかで、豊かな心を育て、自己肯定感を高め、障がい認識の基礎を築く。	・校外学習において、ルールやマナーを身に付けると共に、絵カード等を活用したコミュニケーション等聴者との関わり方を学ぶ機会を設定する。 ・高良内幼稚園との交流及び共同学習や事前事後指導を通して、幼児が自分の障がいやコミュニケーションについて気付いたり考えたりする場を設ける。〔年8回〕 ・合同保育や行事、学級での活動を通して、身に付けた言葉やコミュニケーション手段を使って通じ合う喜びを味わうことができるようにすることで、自己肯定感を高める。					
小学部	【学力・体力の向上】 個に応じた指導の充実を図り、学力・体力の向上を図る。	・一人一人の実態に応じて、ICT機器を活用した授業を行う。〔週1回以上〕 ・学年を越えた授業グループにおいて、指導打合わせの時間を設定し、カリキュラムマネジメントの充実を図る。〔月1回〕 ・休み時間や友情タイムの時間を活用し、体育の授業以外で体を動かす時間を設定する。〔月1回以上〕					
	【言語力・コミュニケーション力の向上】 「言葉の時間」や「話し合い」活動の充実を図り、実践的なコミュニケーション力を育成する。	・学級、学年を越えて児童同士が話し合い、活動を計画する場を設定する。〔学期に1回以上〕 ・「言葉の時間」の各グループの実践について、学部職員で共通理解を図る。〔学期に1回〕 ・行事後に感想を書く活動を行い、学部内に掲示することで、他学年の児童が書いた文章に触れる機会を設定する。〔学期に1回以上〕					
	【障がい認識・自己肯定力・規範意識・社会性の向上】 体験活動を推進し、社会性の向上を図る。	・交流及び共同学習の活動を通して経験を深め、社会性を養う場を設定する。〔年2回以上〕 ・遠足や清掃活動、給食時に縦割り班での活動を取り入れ、児童同士が交流する機会を設ける。〔毎日〕 ・他学部と触れ合う機会を設定することで、自己主張や協調性を身に付けていける場を設定する。〔月1回〕					
中学部	【学力・体力の向上】 基礎的・基本的な知識・技能を主体的に学び、自ら活用していくための資質や能力を育む。	・知識・技能の習得状況を把握し、授業改善を図るため、定期考査や各種調査等の結果を学部内で分析し、生徒個々の課題を共有する。 ・保健体育や学級活動での指導を通して体力の向上を図るとともに、体育的行事でその成果を生徒自ら実感できるようにする。					
	【言語力・コミュニケーション力の育成】 個々の実態に応じて言語力とコミュニケーション力を育む。	・自立活動を中心とした書記日本語の指導に加え、本を身近に感じられる環境づくりや本に触れる機会を増やすなどの読書指導に取り組む。(年3回以上) ・学校間交流の目的を職員間で共有し、効果的な学校間交流に取り組む。(信愛中学校年3回、佐賀県立ろう学校年1回)〔年間4回〕					
	【障がい認識・自己肯定感・規範意識・社会性の向上】 障がいを含めて自己と他者を肯定的に認識し自信と誇りをもって主体的に生きる力を培う。	・将来の見通しをもてるよう、ロールモデルとなる成人聴覚障がい者を招き、自身の体験から学んだこと等についての話を聴く機会を設ける。〔年間1回〕 ・自己を障がいを含めて肯定的に捉え、互いの違いを認め合い、規範意識や社会性を身に付けることができるように、縦割り班活動や校内弁論大会に取り組む。					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

評価項目以外のものに関する意見